



毎度お世話になっております。株式会社シロクマです。この時期としては異例の肌寒さが続き、帯広で8年ぶりに5月の積雪を観測したかと思えば、夏日の地域があったりと、なかなか安定しない今年の天候。寒暖差アレルギーというこれまであまり耳にしなかった症状で、体調を崩している方も少なくないようです。皆様も体調管理には十分お気をつけください。

今月のホット情報

洗練されたデザインが上質な空間にもマッチ インテリアに調和する消火器スタンド



FEX-100 消火器スタンドA形



FEX-150 消火器スタンドプレーン



FEX-101 消火器スタンドB形



むき出しのままでは...



FEX-151 消火器スタンドスリット

防災用品として不可欠な消火器。いざという時にその存在をはっきりと認知できるように「消火器」と表示した標識を見やすい位置に掲示することは、消防法で義務付けられています。

しかし、ホテルや文化施設など内装やインテリアにこだわった空間に、あの赤い筒状のものがむき出しで設置されているのは、ちょっと無粋なもの。消火器そのものが、まともに目に飛び込んでこないよう設置にひと工夫することが求められる場面もあります。

シロクマの消火器スタンド4機種は、そんな上質な空間にも調和する洗練されたデザインが目を引きまします。ステンレスにヘアライン加工を施したFEX-100およびFEX-101は、すっきりとシャープな印象。

ラバーウッド+ブナ突板貼りのFEX-150およびFEX-151は、和風のインテリアにも似合うシックで落ち着いた雰囲気です。ベース上面には重しとしてフェルト貼りの鉄を取り付け、安定感を持たせています。底面にもフェルトを貼ることで、床に傷が付くのを防ぎます。ともにライトオークとダークブラウンの2色展開。

各アイテムとも最も一般的な粉末10型用に設計しています。

セミナーレポート

赤字経営から体重計売り上げ世界一の会社へ



「タニタの社員食堂」ですっかり有名になった計量器メーカーのタニタ。現在はタニタ総合研究所の所長を務める谷田大輔氏(前会長)が、87年に経営を引き継いだ時、同社は赤字だったそうです。その後、体重計売り上げ世界一の会社に育て上げた谷田氏の経営論の一端に触れてみました。

88年に国内生産設備をすべて秋田に移転したことで、本社工場に在籍していた社員は全員が退職、谷田氏は経営者として辛い思いをしたといいます。しかし、工場の社員の平均年齢は40歳から19歳に下がり、樹脂部品、バネ、電子部品など高コストの外部調達部品を内製化し、生産効率を向上させたことで、移転直後に黒字化したそうです。

この時に残された本社工場を「減量センター」に改装、90年から肥満者への減量指導を始めました。体重計ビジネスから体重ビジネスへとコンセプトを変えたのです。15年続けましたが、それも最終的には年1億円の赤字で閉鎖。この時に「秋田移転のこの舞は避けよう」と、社員をスタッフに採用した社員食堂を開業。「運動と食事の結果が体重である」ことから、「徹底的に食べることをやろう」と思い至ったそうです。ここからさらに体重ビジネスは健康ビジネスへと発展していきます。

また、事業単位の収支を確認し、競合の多い電気事業部と、100円ライターの出現で将来性の低いライター事業部を撤退。はかり事業に絞り込み、企業規模を適正化して利益体質へのシフトを図りました。何かを決断する時、谷田氏は必ず「中長期計画に合っているか」「世の中のためになるか」「社員のためになるか」を念頭に置くといいます。